

*** 今日の健康（4月）***

＜先天性風疹症候群を防ぐために その1＞

風疹の感染力はインフルエンザの2～3倍と強く、1人の患者から免疫がない5～7人に感染させる可能性があり、成人で発症した場合は高熱や発しんが長く続いたり、関節痛が出現したりするなど、小児より重症化することがあります。また、脳炎や血小板減少性紫斑病を合併するなど、入院加療を要することもあり決して軽視はできない疾患でもあります。妊婦が感染を受けると胎児に先天性風疹症候群を引き起します。

風疹は子どもの病気と思われがちですが、近年では子どもよりも大人の間で感染が広がっているため注意が必要です。流行は春先から初夏に多く、潜伏期間は2～3週間、感染しても症状の出ない人が15～30%程度います。

＜先天性風疹症候群＞

免疫のない女性が妊娠初期に風疹にかかると、風疹ウイルスが胎児に感染して、出生児に先天性風疹症候群（CRS）と総称される障害を引き起こすことがあります。

CRSの3大症状は先天性心疾患、難聴、白内障です。このうち、動脈管開存症などの先天性心疾患と白内障は妊娠初期3ヵ月以内の母親の感染で発生しますが、難聴は初期3ヵ月のみならず、次の3ヵ月の感染でも出現する症状です。しかも、高度難聴であることが多いとされています。3大症状以外の症状には、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅滞、精神発達遅滞、小眼球など多岐にわたっています。



[詳しくはこちら（厚生労働省 WEB ページ）](#) (Ctrl キーを押しながらクリック)

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏